

経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県小鹿野町 国民健康保険町立小鹿野中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
10,316	8,475	第2種該当	-	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
95	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	95
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
60	-	60

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の役割・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

高齢化が著しい秋父地域であるが、当院は西秩父地域では唯一の病院である。
入院機能では急性期病床45床、回復期病床30床（地域包括ケア病床）で運営している。入院患者の退院後も見据えて多職種で連携し、予防からリハビリまで切れ目のない医療を提供している。
外来診療では近隣のクリニックでは難しい検査や手術も実施している。また、訪問診療を積極的に行い、在宅でも適切な医療が受けられるよう整備している。加えて、令和5年度から訪問看護事業を当町保健課より当院に移管し、さらなる在宅医療提供体制の強化に向けて注力している。
以上のことから、西秩父地域の医療拠点としての役割を担っている。高齢化が著しく、山間部であり市街地への公共交通機関が乏しい当地域にとっては要となる病院である。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①**経常収支比率**→外來収益は、新型コロナウイルス5類移行後、発熱外来対応が前年度を下回った影響もあり減となった。入院収益は前年度末に発生したクラスターの影響が引き前年度を下回った。一般食料からの繰入金が前年度を上回ったが経常収支比率は1.0の水準を維持した。
②**医療収支比率**→外來：入院収益の減少が影響し医療収益が前年度より減込み、医療費用は人件費や施設修繕により増加したため医療収支比率は大きく高くなった。
③**修正医療収支比率**→給与費、施設修繕等の費用が経費を圧迫させている。収益でまかなうことが困難であり、一般財源からの借入に依存している状況である。
④**病床利用率**→許可病床は95床であるが、スタッフ数の減少と一般病床、回復期病床ともに30床での運用を行っている。クラスターの影響を受けた年度収益が低かったことが響いた。年度末にかけて増加傾向に転じたが、昨年より低下した。病床利用率は大きく高くなった。
⑤**入院患者1人1人当たり収益**→重症の高い眼科手術を入院で対応していたが、日帰りを目指す患者が増加し、入院患者数が減少した。一般食料からの繰入金も減少した。
⑥**外来患者1人1人当たり収益**→発熱外来の対応が前年度を下回ったこと、地域人口の減少も加わり受診患者数が伸び悩み、収益が減少した。
⑦**職員給与費対医療収益比率**→前年度比で入院・外來収益等医療収益の減収、職員数の増減により、職員給与費対医療収益比率は高くなっている。
⑧**材料費対医療収益比率**→入院患者減に伴う医薬品費、給食材料費の減、発熱外来減に伴うコロナウイルス検査試薬の購入量減により前年度を僅かに下回った。
⑨**事業次年度比率**→1年度前倒しに増設工事を実施し、多額の減価償却費を計上している。人口減少も加速しており、収支のさらなる収支増加に懸念が強い状況である。多額の減価償却費に向けたため、訪問看護事業等の新たな方法を取り入れ経営改善に取り組んでいく。

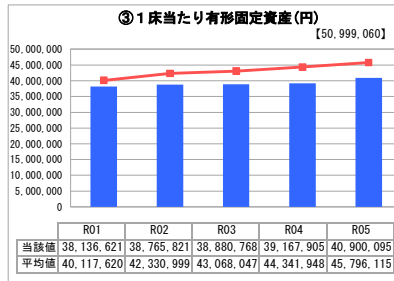
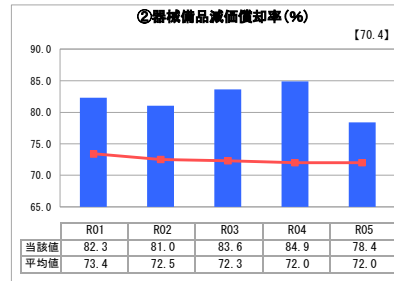
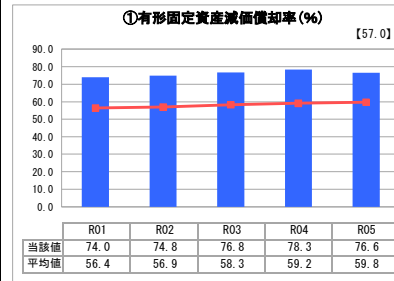
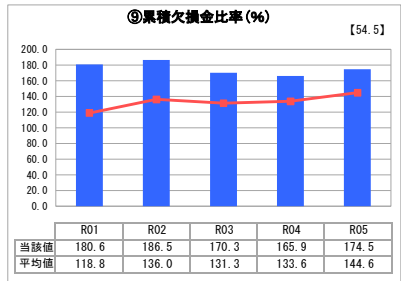
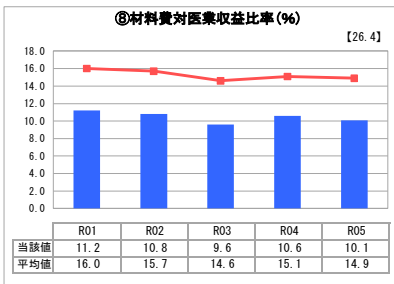
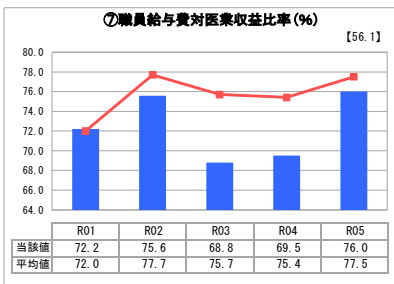
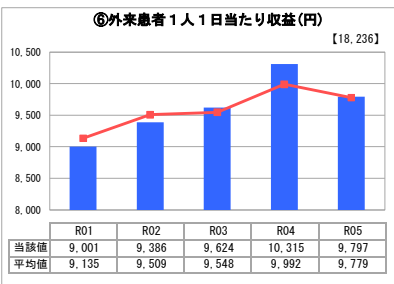
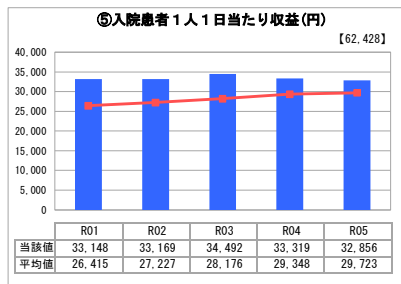
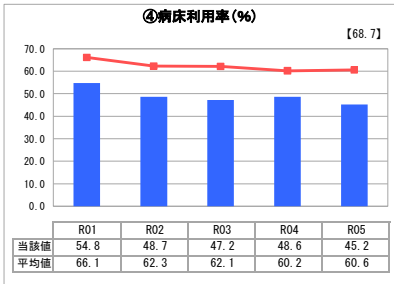
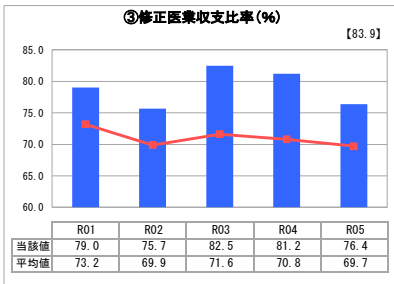
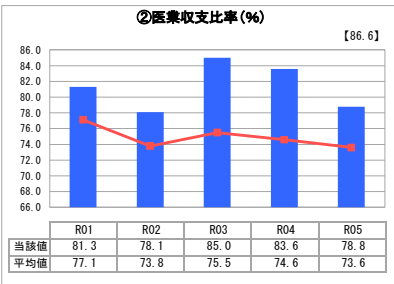
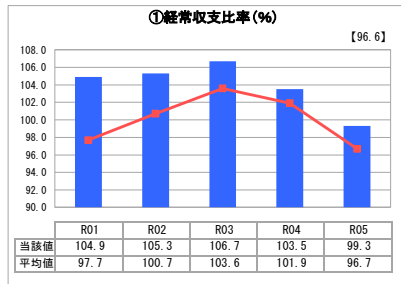
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②機械備品減価償却率は類似団体平均値を上回っており、固定資産減価償却率が高いことから老朽化が進んでいると思われる。
③1床あたり有形固定資産については、平均値を下回っているが、老朽化により設備の更新が増えることが予想される。将来の減価償却費の負担を考慮し、適度な投資とならないよう慎重に検討したい。病院本部は昭和51年建設し40年経過しており、建物の安心・安全を確保するため、平成29年度に耐震工事を実施し、雨漏り対応工事を令和2年度に実施した。加えて令和6年度中に屋上防水工事も実施予定である。機械備品についても類似団体と比較して減価償却率が高くなっており、医療機器に関しては、1年でも長く有効利用するために、保守点検及び精度管理を定期的に実施し、耐用年数より長く利用している機器が多い。保守点検業者からの情報により精度が確保されないと判断された場合は、機器の更新を行っている。
今後は、老朽化が進んでいる空調設備、ボイラー、照明のLED化等の更新を計画している。

全体総括

当地域の人口減少、高齢化は年々厳しさを増しており、病院運営が逼迫する要因となっている。とりわけ施設全体の老朽化が著しいが、多額の費用を投じなければならず、大幅な改修は困難である。
令和5年度については、令和4年度末に発生した新型コロナウイルスのクラスターによる影響が長引き、前期の入院患者数が大きく落ち込んだ結果、最終的な入院・外來収益についても前年度を下回る決算となった。
令和5年度から取入れた訪問看護事業については、好調なスタートを切っており、収支改善を図るうえで重要な事業となると考えられる。
また、令和5年度に策定した経営強化プランでは患者動向を重視し、病棟の集約化を検討する計画で、併せて訪問看護・訪問診療の在宅医療の強化を図り、当院が地域医療の拠点として存続するために最善な方法を検討していきたい。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県小栗野町 国民宿舎 両神荘

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法適用	観光施設事業	休養宿泊施設	A 2 B 2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	建物延面積 (㎡)	宿泊定員数 (人)	
0.0	74.1	4,302	168	

客単価 (円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合 (%)
9,694	無	80.1
バリアフリー法の基準適合性	トイレ洋式化率 (%)	Wi-Fi 設置
無	85.7	有

グラフ凡例
■ 当該施設値（当該値）
— 類似施設平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均



分析欄

1. 収益等の状況について
①全国旅行支援（埼玉割）事業の終了、本館客室の改修工事のため本館を休館しての営業により売上が減少した。②企業債償還金額の増加に伴い上昇している④定員稼働率は工事による本館休館等宿泊客の減少により数値が下がっている。⑤売上高人件費率は利用者の減少により上昇している。⑥売上高GOP比率は、宿泊者の減少電気料その他経費の値上げもあり利益が減少している。⑦EBITDAについても収益が減少しているため数値が上昇している。本館客室改修工事も令和6年度までの継続工事となるため工事が終了するまで厳しい経営となることが予想される。

2. 資産等の状況について
⑧有形固定資産減価償却率については、施設の老朽化に伴い観光庁の補助金により、今回本格的な全面改修工事を開始している。（令和6年度継続事業）⑪累積欠損金比率は、一時上昇傾向が見られたがコロナの影響、工事による休館により赤字が続いている。⑫改修工事に伴う補助金のほか、借入れにより資金を確保したため数値が上昇している。令和6年度についても工事に伴う借入を予定しているため工事終了後の収益増加ができるまで改善は難しい。

3. 利用の状況について
⑬宿泊割引等のキャンペーン実施により前年までは多くの集客が来れたが、キャンペーンの終了、工事による休館が影響し宿泊客が減少している。工事は令和6年度までの継続工事となるため引き続き工事終了まで数値の回復は難しい。

全体総括
今年度から観光庁補助金を活用した今回初めてとなる本館全面リニューアル工事令和6年度にかけ開始したため、営業上の収益は令和5・6年度は減少し厳しい経営状況となることが予想される。ただし工事終了に合わせ宿泊料金の見直し、繁忙期、閑散期等柔軟な料金設定を取り入れることで収益率の上昇を見込んでいる。また今後令和7年度より指定管理者制度により民間の経営を取り入れる予定であり経営のさらなる改善ができると見込んでいる。

経営比較分析表（令和5年度決算）

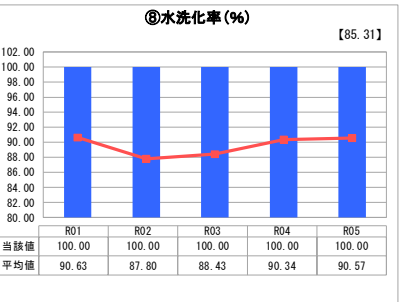
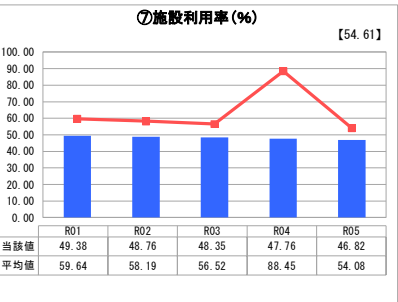
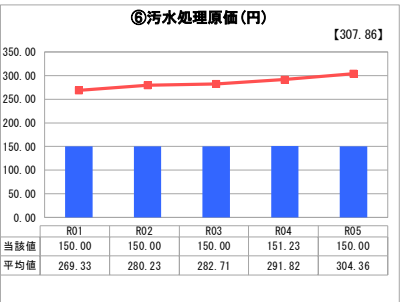
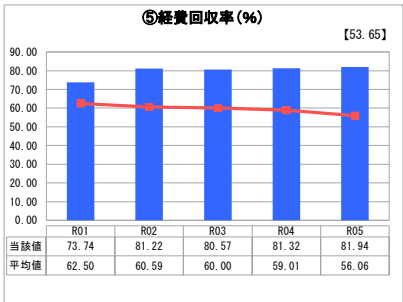
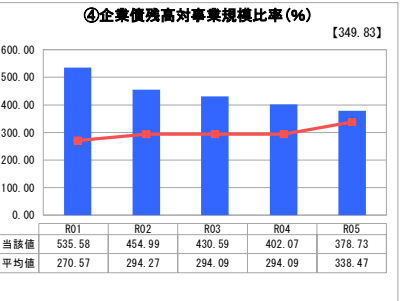
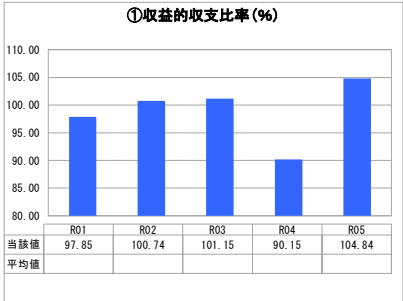
埼玉県 小鹿野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	34.62	100.00	2,090

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,316	171.26	60.24
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,534	1,712.60	2.06

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
経営の健全性についてはR4年度より改善している。収支が黒字（100%以上）となっているが、経営改善に向けたさらなる取り組みが必要である。

②累積欠損比率
類似団体平均値と比較して高い水準となっているが、これは当町がこれまでに合併処理浄化槽の設置を積極的に推進してきたためである。合併処理浄化槽の設置基数も一定の基数に達し、近年は年間の設置基数が減少傾向にあるため、今後の企業価値高は類似団体平均水準に近づくと考えられる。

③流動比率
汚水処理に係る費用を使用料のみで賄えてはいない、これは社会情勢等から、消費税の増税分以外は使用料金を値上げしていないことが要因の一つと考えられる。今後については、汚水処理費の増加が予想されるため、使用料の値上げ等を検討し適正な使用料水準の確保が必要である。

④企業価値高対事業規模比率
類似団体平均値と比較して低い水準となっているが、当町では世帯人員（使用人員）により設置する浄化槽の大きさを決定しており、6名以上の場合は10人槽を設置するなど汚水を確実に処理できるように整備しているためと考えられる。

⑤経費回収率
浄化槽により汚水処理をしており、設置後すぐに使用開始するため、水洗化率は100%である。

⑥汚水処理原価
毎年150円台をキープしており、安定した汚水処理コストを維持している。また、類似団体平均値と比較しても、比較的安価な汚水処理コストを実現している。今後も汚水処理単価の上昇をなるべく抑えるように努める。

⑦施設利用率
類似団体平均値と比較して低い水準となっているが、当町では世帯人員（使用人員）により設置する浄化槽の大きさを決定しており、6名以上の場合は10人槽を設置するなど汚水を確実に処理できるように整備しているためと考えられる。

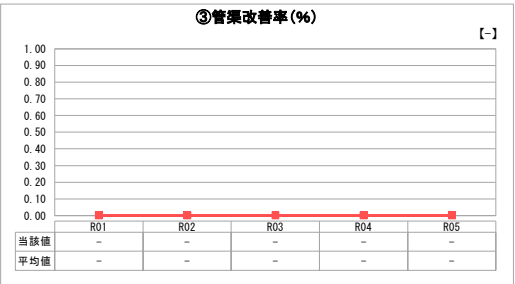
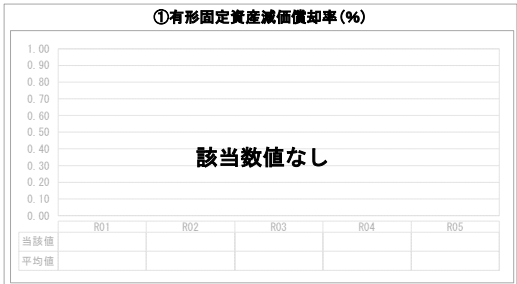
⑧水洗化率
浄化槽により汚水処理をしており、設置後すぐに使用開始するため、水洗化率は100%である。

2. 老朽化の状況について

当町では全域を市町村設置型浄化槽で整備しているため、管渠の設備はありません。

市町村設置型浄化槽の供用開始から24年が経過しますが、浄化槽の耐用年数はおおむね30年となりますので、老朽化対策については今後検討していく必要があると考えます。

2. 老朽化の状況



全体総括

汚水処理費を浄化槽使用料で賄えていないため、現状、繰入金を受けることにより、不足額を補填している状況にあります。

今後、汚水処理費の増加が予想されることから、料金設定の見直しによる、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減に向けた取組が必要であると考えます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。